

開村100周年記念特集②

苦難の村政 昭和初期

松岡農場小作争議

大正15年当時、松岡農場は村の中央部に約800haの農地を持ち、小作人110戸を抱える村最大の大地主でした。

この年は冷害がひどく、小作人たちは小作料の減免を求めて農場と交渉をおこないましたが、お互いに譲らず、幾度となく調停をおこない、8ヶ月後ようやく一応の解決をみました。

しかし、小作人側の意見が十分に反映されたとは言えず、昭和16年に農場開放が実現されるまで、毎年小作料の引き下げを求めて小作争議が発生していました。



村最大の大地主 松岡農場事務所

8代村長 梶次郎
(昭和4.6.28~昭和5.12.17)



7代村長 千田貞二
(昭和3.6.13~昭和4.6.28)

6代村長 西村刃太郎
(大正14.10.16~昭和3.6.13)



置村20周年を迎えて

昭和10年9月24日、置村20周年記念式典は、和寒尋常高等小学校を会場に村内外から約280人が出席し、盛大に開催されました。

式典では、功労者への表彰状・感謝状の授与のほか、教室では児童作品展覧会や農作物展示、生け花展があり、屋内体操場では学芸会や活動写真会が開催されました。

当時の村長 藤沢辰次郎の式辞から、凶作が続き非常に苦しい生活が続く中、村民が一致団結して冷害に対応する寒地農業の確立や、村財政の再生に向けた経済基盤強化を図っていた様子がうかがえます。

「開拓の道程にある本村は、施設経営の急を要する事項枚挙にいとまなきにも抱はず、不幸にも近年冷害凶作相次ぎ住民の資力根底より破壊せられ、村財政また極度の窮乏を告げ村勢の前途まことに憂慮せられたるも、住民一同よく先人の偉業を継承して自奮自励、応急対策を講じ併せて根本的経済更生計画を樹立し、これを実行に移し以て将来の方途を誤らざらんことを期しつつあり。」
(原文のまま。一部抜粋)

字名の改正

昭和9年、和寒、和寒原野、ワッサム、和寒市街予定地、ペオツペ、辺乙部、ペオツペ原野、ケ子ブチ、ケンフチ川上流、塩狩、塩狩区画外、オンネベツ等の字名から、現在の20の字に改正されました。

9代村長 藤沢辰次郎
(昭和5.12.17~昭和11.11.10)



開村20年後（昭和10年度）の村勢

- ▽戸数及び人口
 - 戸数 1,567戸
 - 人口 9,301人 (男4,778人、女4,523人)
- ▽学校
 - 尋常高等小学校2 (和寒、中和)
 - 尋常小学校5 (三和、西和、大成、東和、朝日)
 - 特別教授場2 (福原、塩狩)
 - 児童 尋常科 男892人 女796人 (現在の小学校) 計1,688人
 - 高等科 男155人 女84人 (現在の中学1・2年生) 計 239人